

きらくえん通信

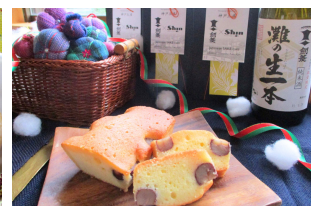
きらくえんの最新情報や法人の取り組みを発信します！



友が丘きらくえん開設

2026年4月1日に社会福祉法人クローバーの会から障がい事業（就労支援B型・グループホーム）を継承し、「友が丘きらくえん」を開設しました。須磨区友が丘の住宅地で35年間、知的障がいのある女性たちが作業所で仕事をしながら地域の一員として暮らしています。

作業所では、地域の清掃や軽作業の他、世界に一つしかない「さをり織」の雑貨や焼き菓子を製造販売しています。これらの商品は、K O B E 須磨きらくえんの喫茶やレストランFikaでも販売しています。ぜひ一度手に取ってみてください。



ご注文はこちらから↓↓ 

☎ 078-795-4078

✉ tomogaoka-kirakuen@kirakuen.or.jp

介護福祉士国家試験に合格しました！



合格者のコメント

きらくえんでは、試験対策の勉強会があり、同僚とともに学ぶことができたのは心強かったです。2回目の挑戦で、今年念願かなって介護福祉士に合格することができました。良いケアができるよう、

これからも頑張ります！！

ロン・ヤ・ミン・キンさん
(けま喜楽苑)



民主的運営の取り組み



5月に家族会総会を開催しました。(けま喜楽苑)



各施設の特養、グループホームで毎月入居者自治会を開催しています。(グループホーム竹原野)

職員育成の取り組み

きらくえんの相談職を育成し、ソーシャルワークの質を高めるためのガイドブック（KCC Kirakuen Community Care Guidebook）が完成しました。



知ってる？知ってた？

お耳の健康クイズ

電子レンジの「ピッ」という音と、犬の鳴き声「ワンワン」。年を重ねると、聞こえにくくなりやすいのはどちらでしょう？

A. 電子レンジの「ピッ」

B. 犬の鳴き声



ショッピングバッグの紐付け作業の様子

「生きがい就労」の取り組み

いきがい就労とは、高齢者が地域の中で役割を持って、無理のない範囲で働きながら自分らしく社会に参加し続ける取り組みです。グッズの作成や梱包などの軽作業を中心に、毎週1回けま喜楽苑で実施しています。

介護DX推進の取り組み

きらくえんでは20年前から介護現場にリフトを取り入れ、ご利用者と職員双方に負担のないケアを実践してきました。その取り組みに対してKOBETEXきらくえんが『2025年ひょうごノーリフティングケア優良モデル施設』に認定されました。

今後は見守り機器や介護ロボットを駆使し、業務効率を改善しつつ、科学的根拠に基づく個別ケアの充実を目指しています。



認定証授与式の様子



睡眠データ分析グラフ

地域に根差した防災・減災の取り組み



クイズやスタンプラリーで楽しみながら学びます

各施設では、地域の課題に応じ、行政、地域住民、学校、他施設と共に防災イベントを開催しています。喜楽苑で開催した、日々の防災減災を考えるイベント『カエルキャラバン』には、子どもからお年寄りまで多世代の地域住民が大勢参加されました。

知ってる？知ってた？

お口の健康クイズ

20本程度の歯があると、多くの食品を自分の歯で噛める可能性が高いとされています。高齢者が歯を失う一番大きな原因はどちらでしょう？

- A. むし歯 B. 歯周病

2025年度（令和7年度）事業活動及び決算報告

法人全体のサービス活動状況 増収減益



法人全体サービス活動収益

41億6,424万円

▲ 前年比 +3,259万円の増収

処遇改善加算（526万増）、
補助金収益（1386万増）、外国
人賃貸住宅費（1200万）の増加
が要因



8拠点サービス活動増減差額

2億121万円

▲ 前年比 +2,117万円

サービス活動増減差額率
5.04%
（前年比 +0.48ポイント増加）



稼働率の二極化

特養好調 97.1%

**認知症対応型デイ苦戦
61.02%**

特養が好調な一方、認知症対応
型デイなどに稼働の課題

法人全体の収益 と利益構造

サービス活動収益計

41億6,424万円

↑ 前年比 +3,259万円

サービス活動費用計

40億4,786万円

↑ 前年比 +3,663万円

サービス活動増減差額

1億1,637万円

↓ 前年比 △403万円

費用構造と変動要因（法人全体）

サービス活動費用の増加要因（前年比 +3,663万円）の分解

人件費



約26億1,631万円

常勤職員の減少と、契約・非常
勤職員の増加による構成変化。
残業手当の削減を実施し、総額
の増加を小幅に抑制。

事業費



約6億1,069万円

給食費が1,295万円増加した一
方、消耗品費等の徹底した削減
努力により大部分を相殺。

事務費



約5億4,298万円

土地賃借料（外国等家賃の会計
処理変更による+1,090万円）、
通信費、業務委託費が増加。一
方で修繕費・保守料は削減。

法人全体の総括

物価高騰や人件費上昇の影響がある中、徹底した経費コントロールと施設系・在宅系サービスの堅調な稼働により、
全体として安定した黒字（1億1,637万円）を確保した1年であった。



1. 認知症対応型デイサービスの 再構築

稼働率が低迷する拠点における抜本
的な運用モデルの見直しが急務



2. 持続可能な運営を支える 人材体制の構築

「常勤・非常勤のバランスの最適化」
を継続しながら、時間外労働時間の削
減を実施。処遇改善加算を有効に活用
し、職員の定着率向上を図る



3. 運営課題を抱える事業の体制強化

拠点の黒字化だけでなく、赤字事業の
改善を実現することで、法人全体の経
営基盤の強化を図る

次年度
注力ポイント

